

2022年度秋学期

グローバル地域文化学の実践1・4

募集要項

「グローバル地域文化学の実践」は、日本国内においてグローバル化する社会の様々な課題に向き合う経験を主体的に積む実践系の科目で、フィールドワークを行うクラスもあります。また、本科目を履修後に「グローバル地域文化学の発信」を履修することで、身近なグローバル・イシューについて英語で海外に発信できる力も身に着けることができます。

科 目	単 位 数	学 期	担 当 者	募 集 人 数	費 用
グローバル地域文化学の実践1 (水災で被災の記憶のまを歩く)	2単位	秋学期 (集中)	小野 文生 fono@mail.doshisha.ac.jp	約9名	約6万円
グローバル地域文化学の実践4 (多文化×映像フィールドワーク)	2単位	秋学期	王 柳蘭 rwangkan@mail.doshisha.ac.jp 直井 里予	約2名	なし

※費用は今後変更になる可能性があります。

- ★対 象： グローバル地域文化学部
- ★募集説明会： 7月8日（金）12時30分～13時00分 ZOOM開催
- ★募集期間： 2022年7月19日（火）～7月28日（木）
- ★選 考： 2022年8月3日（水）予定
※詳細は科目担当者より連絡します。
- ★問合せ先： グローバル地域文化学部事務室（志高館1階）
T E L: 075-251-2610
E-mail: ji-grjm@mail.doshisha.ac.jp

★科目の取扱い

対 象	グローバル地域文化学部
単 位 数	2 単位
単 位 の 取 扱	本科目の修得単位は選択科目 A 群に算入します。 また、本科目を履修後に「グローバル地域文化学の発信」を履修することで選択必修科目 B 群（スタディー・アプロード科目群）の単位を修得することができます。
開 講 年 度 ・ 学 期	グローバル地域文化学の実践 1：2022 年度 秋学期（集中） グローバル地域文化学の実践 4：2022 年度 秋学期
登 録	大学にて一括登録を行います。（各自での登録手続は不要です）
注 意 事 項	クラス決定後のキャンセルは基本的に認められませんので、十分検討した上で出願してください。 履修中止、および秋学期開始前の登録削除も原則認めません。

★募集説明会

日時：2022年7月8日（金） 12時30分～13時00分
場所：ZOOM 開催

★個別相談

やむをえず説明会に出席できなかった場合の質問については、各担当者にメールで連絡してください。

★出願受付

■受付期間
2022年7月19日（火）～ 7月28日（木）
【月～金 9：00～17：00（11：30～12：30は除く）】

提 出 書 類	所定の願書
願 書 提 出 先	グローバル地域文化学部事務室（志高館1階）
特 記 事 項	各クラス併願が可能です。

★選考試験

- 選考試験（面接）
2022年8月3日（水）予定
※詳細は科目担当者より連絡します。

集 合 場 所	志高館
集 合 時 間	各担当者の指示に従ってください。
特 記 事 項	新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、Zoom 等での選考試験（面接）となる場合もあります。

★結果発表

- 結果発表
2022年8月24日（水） 0時～

発 表 場 所	DUET メッセージ
特 記 事 項	出願者数の状況により第二希望以降のクラスに合格する場合があります。

★科目概要

科目名	グローバル地域文化学の実践1
概要	南九州・不知火海周辺地域で起こった水俣病は、多くのひとにとって四大公害病として「しか」知られておらず、過去のできごとであり、遠い存在であるだろう。とはいえ、人生、家族、友人、地域社会、自然……理不尽にも、こうしたものをすべて台無しにされた受難。その受苦的経験に、どのように寄り添い、それをどのように理解し、またそれをどのように伝えてゆくことができるのか。この問いは、けっして過去のものではない。水俣病を事例として、そこに生きていた／生きているひとたちに出会い、向き合うなかで、厄災の経験と記憶の文化についての考えを深めるとともに、共生社会を構想するための課題を考察する。水俣病は、遠く、また近い。不知火海の美しい自然と人々の暮らしについて学びながら、グローバルと地域の関係性に思いを馳せつつ、〈過去と未来のあいだ〉にある水俣をフィールドワークする。
スケジュール	集中講義形式で実施する。ただし、秋学期金曜3講時に事前授業・事後授業を8回程度予定している。11月26日～11月29日でフィールドワークを行う予定である。

科目名	グローバル地域文化学の実践4
概要	グローバル化とデジタル化が進む社会のなかで、私たちの暮らしは、多種多様な価値観が混沌とし交錯する一方で、パッケージ化された文化や知識、メディアによってつくられた他者のイメージに囲まれています。本科目では、自文化と異文化といったボーダーを乗り越えるべく、「多文化な日常」をキーワードに、受講生が文化の担い手や人と人をめぐる多様な関係性の中に参与しながら、異文化の日常を経験し、そこで見えてきた課題をもちよつつ、映像による多様な解釈と表現の可能性を探ります。具体的には、在日外国人を含め、暮らしの中に息づいたさまざまな文化や価値観、(食、宗教、言語、ジェンダー等)や人との関係性(つながり、サークルや自助グループ等)について、映像フィールドワークの手法を用いて、動的かつ複眼的に捉えることによって、固定化した文化や他者のイメージを乗り越え、日常の中から多文化共生を考えていくことにあります。
スケジュール	秋学期金曜3講時